

令和7年9月12日

6年生保護者の皆様

稲美町立加古小学校  
校長 野邊 久美

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和7年4月17日（木）に、全国の小学6年生と中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値を示してのお知らせではないことをご理解くださいますようお願いいたします。

本校児童は、比較的安定した力をつけてきており、学力の定着が進んでいます。本校児童は読書が大好きなこともあり、豊富な読書体験が読解力の向上および国語の学力の向上に寄与していると考えます。今回の結果を分析し、各教科の授業改善に取り組むと共に、児童一人一人が自分の現状を確認しながら課題を見つけ、主体的に学びに向かう力と学習における自己調整力の育成をめざします。

### 国語

#### 【言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する事項】

授業や日々の家庭学習で漢字の反復学習を行い、何度も繰り返し学習したり復習したりすることで、漢字を正しく使える児童が増えてきています。しかし、情報同士の関係付けや、図を使った語句同士の関係の表し方については、さらに高めていく必要があります。引き続き、読書や図書館の活用を積極的に進めたり、プリントやデジタルドリルを活用して語彙を増やしたりして、言葉の知識を広げると共にその意味を理解できるように指導していきます。

#### 【話すこと・聞くこと】

目的や意図に応じて話題を選び、集めた情報を整理・関連づけて伝える力に特に優れており、伝えたい内容を論理的に構成する力が着実に育ってきています。また、話の要点を的確に捉える「聞く力」や、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力についても確かな成長が見られます。今後は、ICT機器の活用や対話を通して多様な意見に触れ、目的意識をもって内容を取捨選択し、自分の考えと比較することで考えを深め、効果的に他者に伝えていける力を育てます。

#### 【書くこと】

図表などを活用し、自分の考えがより伝わるように工夫して書く力が育っており、視覚的な表現を取り入れたわかりやすい文章を書くことができています。また、文章全体の構成を意識し、段落ごとのまとめや段落間のつながりに配慮しながら書く力も着実に伸びています。その一方で、目的や意図に応じて内容を簡潔に書いたり詳しく書いたりすることには課題があり、表現力を育てる必要があります。今後は、読み手を意識して内容の取捨選択を行い、推敲や表現の調整を通じて、より伝わりやすい文章を作成できるような機会を増やしていきます。

#### 【読むこと】

事実と感想、意見などとの関係を的確に把握し、文章全体の構成を捉えて要旨を理解する力は非常に優れています。また、目的に応じて文章と図表を結びつけ、必要な情報を効果的に見つけ出す能力も高く、視覚的な情報を活用して理解を深めています。今後は、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力をさらに高めていくことが重要であると考えます。その

ため、情報を整理・分類する力を強化し、重要な部分を見つけて他の情報と結びつける活動を取り入れていきます。

## 算 数

### 【数と計算】

計算ドリルやワークを使った反復練習の成果として、基礎的な計算や数に関係する知識は定着していますが、小数の加法において単位を揃えて計算する場面では誤答が多く、数値を同じ基準でそろえる感覚が十分育っているとは言えません。また、文章題において必要な数量や関係を取捨選択して式を立てる設問では、数量関係を整理する力に課題が見られました。今後は、数量関係を図で表し、数の意味や関係を整理する力を高めるような授業づくりに取り組んでいきます。

### 【図形】

角の性質を正しく理解し、正確に作図することができています。また、平行四辺形の作図過程や、辺の延長によってできる角度の関係など、図形の性質を理解し活用する力は着実に育ってきています。しかし、面積の求め方を文章で説明する設問では記述力に弱さが見られました。解法の筋道は理解しているものの、それを論理的かつ明確に表現することに課題があります。今後は、作図や計算に加えて、どの性質を用いたかを言語化させる場を増やし、自分の考えを説明する力を伸ばしていきます。

### 【測定・変化と関係】

はかりの目盛りを読み取る設問で高い正答率を示しており、測定技能の定着が確認でき、基本的な読取作業には自信を持って取り組んでいることが分かります。しかし、変化と関係の領域では、割合を「何倍か」という観点で捉えることに課題が見られました。特に「10%増量」を「1.1倍」と捉えるような考え方が十分に定着していないようです。このことから、割合を「部分・全体・比率」として整理し、実生活の事例と結びつけながら多様な場面で練習する機会を多く取り入れることで割合の理解の定着を図ります。

### 【データの活用】

グラフの選択や傾向を記述する設問においては全国平均を上回り、情報を比較しながら説明する力が育っています。特に、記述式設問で無解答を避け、積極的に自分の考えを表現できていることは素晴らしいことです。その一方で、表の中から条件に合致するデータを選ぶ設問では誤答が多く、条件を複数組み合わせると読み取る場面で混乱が見られました。今後は、問いの条件を明確に把握し、必要な情報を段階的に絞り込む練習を取り入れて指導していきます。

## 理 科

### 【エネルギー】

電気を通す物と通さない物があることや電磁石の強さは電流の強さや導線の巻数によって変わることについても理解ができています。しかし、それを実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られました。問題解決や科学的な探究のプロセスを通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実を図ります。

### 【粒子】

水は温度によってその体積が変わるという既習の内容を根拠にして、自然の事物・現象について予想し、説明することができています。また、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに優位性があり、普段の実験に関する技能が身につけている児童が多いと考えられます。その一方で、水蒸気が冷やされるとどのように状態変化するかについての理解に課題が見られま

した。今後は習得した知識を他の学習や生活に関連付けた授業づくりに取り組みます。

### 【生命】

花のつくりや受粉についての知識が身に付いているようですが、顕微鏡を操作し、適切な像に調節する技能については十分身につけてはいません。今後は、顕微鏡コーナーを設置するなどして、顕微鏡を使う場面を増やしていくが必要です。また、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がみられたので、事実を比較して差異点や共通点を捉えることができるように指導していきます。

### 【地球】

変える条件と変えない条件を整理しながら、解決の方法を発想して表現することや、結果を基に考察し、問題に対するまとめの理由を適切に表現することにやや課題が見られました。今後は、考察する際に表やグラフなどに整理をする活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるように指導していきます。

## 家庭・学校での生活

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」で決まった時刻に寝ていない児童がわずかながらいますが、「同じくらいの時刻に起きている」と全員が回答しており、全体的に基本的な生活習慣が確立している様子がうかがえます。規範意識、自己有用感について「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「人の役に立つ人間になりたい」といった内容に肯定的に回答している割合が高く、児童が自分を信じ、他者と健全に関わりながら、前向きに成長していることがうかがえます。

「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」と答えた割合は高いのですが、中には否定的な回答をしている児童もいることから、学校生活で周囲とのかかわりの中で他者のために活動したり、感謝されたりする経験を積ませ、信頼関係を深めていく取組を進めていきます。

学習面では、「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」については、全体的に、全国や県の平均に比べ学習時間が長い傾向にあり、家庭での学習の習慣化が進んでいることがうかがえます。ICT機器の活用については、タイピングや情報収集といった基本的操作はもちろん、プレゼンテーション能力や図、表、グラフや思考ツールなどを使ってまとめる能力も全国や県の平均に比べ高い傾向にあります。今後、ICT機器の新たな可能性を指導に生かすことで、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざしていきます。

学習への取組については、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組む」など主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり、児童の思いや考えを尊重する取り組みの成果があらわれてきているように思われます。

以上のように、本校の6年生は基本的な生活習慣が確立できており、自己肯定感を持ちながら前向きに活動し、落ち着いた学校生活を送れています。今後も「確かな学力の育成」に取り組むと共に、「地域や社会のために何かしたい」という児童の思いを活かしながら、コミュニティスクールとして地域と共に歩み、地域と共に育つ学校をめざし、児童の社会参画の力を育てていきます。